

令和6年度 第6号

令和6年9月27日(金)発行

学校教育目標:「ひと」とともに生きる生徒の育成

学校 Web ページ



植竹中だより



目指す生徒像:自ら考え、行動できる生徒「笑顔でおはよう」「笑顔でさようなら」1日を満足させる さいたま市立植竹中学校
〒331-0804 さいたま市北区土呂町352 TEL 048(663)2115 FAX 048(665)6377

輝く場面

校長 上 続 昌 司

9月7日土曜日、無事に文化祭を開催することができました。当日は、多くの保護者の皆様にもお越しいただき、本当にありがとうございました。

文化祭について振り返ってみたいと思います。先ず手作りのパンフレットは、文化祭の楽しさが伝わる仕上がりで、ワクワクする気持ちを高めてくれました。そんなパンフレットを持って会場に入った時、きれいに装飾された体育館に実行委員さん達の「成功させよう」という意気込みを感じました。定刻通り、いよいよ文化祭が始まりました。開会行事の実行委員長さんの言葉は端的にまとめられ、それでいて大切な言葉がぬかりなく入っていました。最初の発表は、演劇部です。思わず笑ってしまう場面やグッと引き込まれる場面など、一人ひとりが「その人」になりきり、しっかりとした声で演じていました。多くの人の前で、セリフを忘れずに感情を込めて言葉を発する難しさは、想像以上ではないかと思います。続いて英語弁論です。普段話していない言語を大勢の前で何も見ることなく強弱を加え、より相手に伝わりやすいように工夫できていたことが印象的でした。次は、ハミルトン国際交流事業の発表です。ホストファミリーとの交流や、現地の中学生の様子、食事や文化の違いなどを話してくれました。とても充実した時間だったことが、しっかりと伝わってきました。次は、ビブリオバトルです。3名の発表は、自分が紹介する本の素晴らしさを伝えるための工夫が感じられ、「どの本も読んでみたい」と、思った人も多くいたはずで。次は、ギター部です。練習の時も、発表の時もいつも楽しそうに演奏しています。演奏する自分自身が楽しむことの大切さを改めて感じさせてくれました。最後は、吹奏楽部です。コンクールでも演奏した曲は、何度聴いてもその世界に浸ってしまう素晴らしい演奏でした。また、3年生の先生たちがステージに登場する場面があり、会場内は大きな盛り上がりとなりました。自然に手拍子が入り心も踊る演奏でフィナーレを迎えました。

また、展示作品にも多くの人達が関心を寄せてくれました。美術部の油絵には、その人独自の世界観があり、絵の前で立ち尽くした人もいました。どんな絵に仕上げるのか構想し、何度も修正しながら描いたのだと思います。写真部の作品は、「一瞬」を上手に捉え、人の動きやその時間にしか見ることができない色等が表現されていて、どの作品も見事でした。茶道部は、和菓子やお茶をたてる時の道具などの展示がありました。普段目にすることが無い道具を見て知ることができ、興味を持った人も多くいた事でしょう。家庭科部は、洋服や刺しゅう、羊毛フェルト等の作品が展示してありました。デザインを考え、色の組み合わせを考え、試行錯誤した跡がうかがえました。温かさを感じられる作品が多かったのが印象的です。科学部は、実験のレポートが展示してありました。写真からは、何度も失敗を経て、苦勞して取り組んだ跡がうかがえました。特に興味を持ったのは「持てる水」でした。図書委員会の展示には、植竹中生の読書の実態が書かれていました。デジタル化が進み、本を手にとって読むということが減ってきている現状ですが、ワクワクしながら活字を読んでいく楽しさも、多くの人に味わってほしいと思います。ユースボランティアサービス部の展示には、サステイナブルというテーマで、使わなくなった紙を組み合わせ、手提げカバンに作り替えている作品がありました。持続可能な社会を実現していく重要性を痛感しました。

他にも、ここには書ききることができない様々な場面での、様々な活躍があったことと思います。この日のために努力を重ね、多くの人の前で発表することができた喜びは大きな財産となることでしょう。素晴らしい発表をありがとうございました。これからも植竹中生一人ひとりが、大いに輝いてくれることを心から願います。